

# 私たちの思い「相双の復興は港から」

～相馬港湾建設事務所の広報への取り組み～

## 1 はじめに

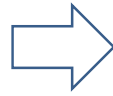
今、福島県では、長引く復旧事業の早期完了への期待から、広報の重要性がましている。当事務所は復旧・復興事業の進捗を「相双の被災者」に、事業の成果が見えるようにPRに取り組んでいる。

「相双の復興は港から」で、被災者と思いを共有し、所内では「合い言葉」とし、他県から派遣職員と広報活動に取り組んでおり、広報への意識改革の取り組みと成果について報告する。

↳ 第三者の視点を生かす

## 2 広報のポイント

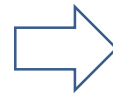
**Step 1 チーム力を上げる!!**  
かっこいいロゴマーク  
統一目標の具現化



騎馬武者は復旧に力を合わせる姿

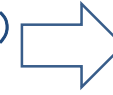
- ・野馬追のネームバリューを利用
- ・かっこつけて合い言葉は英語
- ・緑の輪(和)は、安全・協調
- ・グレーは相馬港の外郭

**Step 2 関心を引きつける!!**  
被災者と思いを共有する言葉  
事務所の意思表示



# 相双の復興は港から

**Step 3 広報対象(相双の被災者)との信頼関係を築く!!**  
少ない解説・きれいな写真  
コンスタントな情報提供



成果1) 浪江町では「請戸漁港・復旧復興だより」を町費で印刷。新年に全戸に配布された。

成果2) 常磐線再開通イベントで「大洲海岸」を広報。用意した資料がすぐになくなり急ぎ増刷!!

↳ 工夫のポイントを3で解説

## 3 具体的な取り組み

### 立ち入れない現場の広報活動

事業名でなく被災者に馴染みのある名称で。

必ずロゴ

完成が見えてきて初めて被災写真を直視できるようになる。

着手・完成の発表から進捗報告へ

ドローンを活用

被災者に情報を提供し続ける(3ヶ月ごとに必ず公表)

セールスポイント  
↓  
ここまで考えてくれているのか!!

## 4 おわりに

当事務所では広報の最大の目的を「被災者の勇気づけ」とし、信頼関係を築く広報に努めている。イベントなどで「ここまで、出来たのか!」、「元気をもらえる」という生の声をもらえると、広報の成果が実感でき、また、職員にフィードバックすることで、士気が高まり、所の元気の源にもなっている。

これらは、震災後、所内で立ち上げた「広報検討委員会」を通じて課題を共有し、工夫を重ね、様々な広報活動を行ってきたノウハウが蓄積されただけでなく、一人一人の意識が少し改革された成果であると思ふ。



派遣職員が共同出資し贈っていただいた